

川崎市上下水道局の提案がJICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）に採択されました

川崎市上下水道局では、世界の水環境改善に向け、開発途上国等への技術協力による国際貢献の取組を推進しています。

この度、本市が昨年10月に提案した事業がJICA（独立行政法人国際協力機構）草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）に採択されました。

著しい経済発展を続けるインドネシア共和国バンドン市において大きな課題となっている下水処理量の増加及び、河川の水質悪化の最大の要因である住民の意識や知識の不足を改善するため、水環境改善に向けた住民啓発について支援を実施します。

1 事業名

インドネシア共和国バンドン市における水環境改善のための人材育成プロジェクト

2 実施期間

平成31年度～平成34年度（約3年間）

3 事業費

約3,900万円（全額JICA負担）

4 実施体制

（1）日本側

川崎市上下水道局、かわさき水ビジネスネットワーク会員企業

（2）インドネシア側

バンドン市水道公社

5 主な活動内容

本市職員等の派遣及び研修員受入により、以下の活動に取り組みます。

- （1）水循環に対する啓発資料の作成支援
- （2）下水道研修テキストの作成支援
- （3）下水道セミナー、ワークショップの開催支援
- （4）川崎市の下水道技術を伝えることによる日本の技術・製品への理解促進

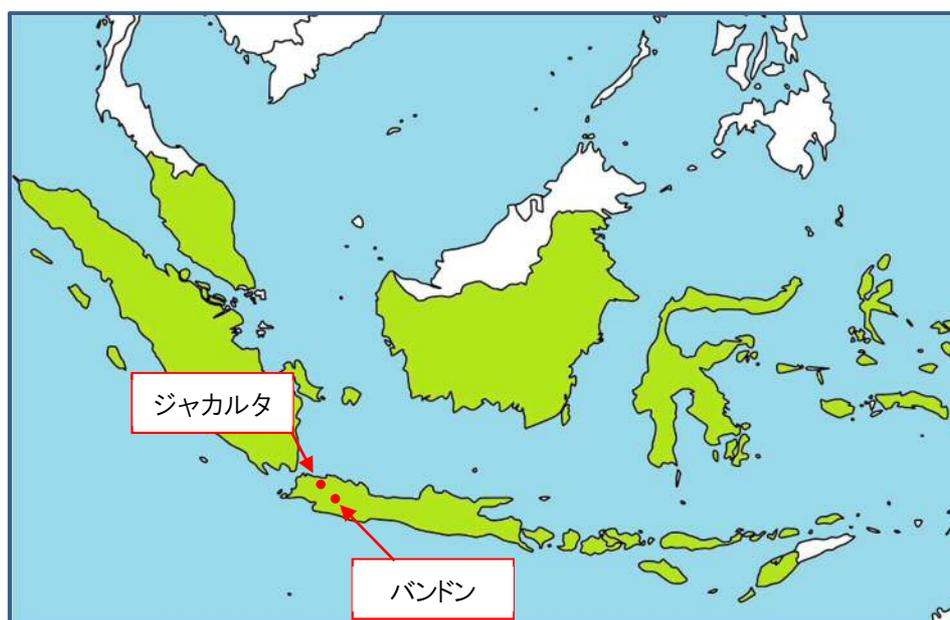
※活動内容については、相手国と調整し進めていきます。

JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）とは

地方自治体が主体となり、地方自治体、地域経済団体、大学、企業及びNGO等がこれまで培ってきた技術・経験を活用してこれらの機関が開発途上地域に貢献することをJICAが支援し、開発途上国の様々な需要・ニーズを日本各地のリソースと積極的に結びつけ、国際化することによって、地域の活性化を促進する事業です。

バンドン市の概要

- ・ジャワ島の西部に位置し、西ジャワ州（インドネシア全 34 州、ジャワ島にある 4 州のひとつ）の州都
- ・面積 167.31km²、人口は約 250 万人（平成 27 年／国内 3 番目に人口が多い都市）で、人口密度が 1km² 当たり約 14,000 人であり、インドネシア全体の 135 人程度に比べ非常に人口密集である。
- ・標高 791m に位置することから、年間の平均気温は 23 度と、熱帯性気候のインドネシアの中では、過ごしやすい気候である。
- ・経済成長率は 8% とインドネシア全体の平均の 5% 程度に比べて高く、地域経済の発展に重要な役割を担っている。
- ・バンドン市が位置する西ジャワ州は、首都であるジャカルタ首都特別州に隣接し、人口は約 4,671 万人（平成 27 年／国内で 1 番人口の多い州）、面積は約 35,378km² であり、18 県 9 市の行政区に分かれている。
- ・バンドン市の下水道普及率は 60~70% であり、バンドン市水道公社では、下水道普及率の向上は重要な課題として認識しているが、普及を促進できていない状況である。



バンドン市の位置図